

# 県外派遣報告書 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成28年度 第27回関東高等学校バスケットボール新人大会	開催地	埼玉県春日部市 久喜市
報告者名	桑島汐織 大山賢史 慶野芽以	派遣期間	平成29年2月10日(金)～12日(日)
参加者 (所属都県)	本部:渡邊整(栃木) 稲葉威(茨城) 東京:草野伸昭 吉宇田太一 岩井遥河 神奈川:大澤尚樹 長谷川裕 三角峻 茨城:川満有紀 一色渉 川北聖人 埼玉県内審判員	関東指名:大庭英裕(神奈川) 緒方崇(東京) 千葉:伊橋隆浩 久保あしみ 林原潤 群馬:星野由貴 菊地真吾 小澤朋克 山梨:佐田幸一 丸山淳 手塚清孝 栃木:大山賢史 桑島汐織 慶野芽以	

## 【審判会議内容】

「良いゲーム運営のために～コート上で必要なこと～」 講師：大庭英裕 氏

○ゲームがうまく進まなくなるのはどんなときか？

- ・判定に誤りがある 例)ファウル、ヴァイオレイション、ショットのカウント/ノーカウント 等
- ・ゲームの変化に気づけない 例)戦術の変化、プレイヤーの交替 等
- ・テーブルオフィシャルズのトラブル

●良いゲーム運営のためにコートで必要なこと

### ①正しい判定

- ・ルールの理解
- ・プレイの理解
- ・プレイヤーの理解
- ・ゲームの理解
- ・時間と点差の理解 等

これらの理解に加え、  
場面に適したものでなければならぬ

適用の判断

↓  
気づき、察知、感じと  
る  
↓  
情報収集(観察・対応)

・触れ合いの責任

RSBQ、アドバンテージ/ディスアドバンテージの考え方等

正しい判断・正確な見極め → マニュアルの理解と活用 → 良い位置(アングル・距離)

=見極めができる良い位置

### ②スムーズな運営

- 時間・ベンチの等の管理
- TOクルーの掌握・連携・協力



「確認・習慣化・協力」を行うことによって  
「未然に防ぐこと」「素早い対応」につながる

### ③2人(3人)の協力

①②についてを

Pre-game-conference、タイムアウト、ピリオド間等の時間を用いて情報の共有を行う

○緒方 崇氏

・正しい判定を積み重ねることがゲームコントロールにつながる

→良い位置を追求する→ブラインドコールしない

・プレイヤー・ベンチがやろうとしていることを理解するために、プレイヤー・コーチと目を合わせて(顔を見て)様子(反応)をみる。しっかりとコミュニケーションをとること！

※レフリーに無視されることが、プレイヤーやベンチのストレスにもなる

# 県外派遣報告書 栃木県バスケットボール協会 審判部

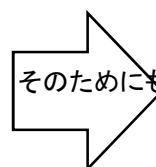
大会名	平成28年度 第27回関東高等学校バスケットボール新人大会	開催地	埼玉県春日部市 久喜市
報告者名	桑島汐織 大山賢史 慶野芽以	派遣期間	平成29年2月10日(金)～12日(日)
参加者 (所属都県)	本部: 渡邊整(栃木) 稲葉威(茨城) 東京: 草野伸昭 吉宇田太一 岩井遥河 神奈川: 大澤尚樹 長谷川裕 三角峻 茨城: 川満有紀 一色渉 川北聖人 埼玉県内審判員	関東指名: 大庭英裕(神奈川) 緒方崇(東京) 千葉: 伊橋隆浩 久保あしみ 林原潤 群馬: 星野由貴 菊地真吾 小澤朋克 山梨: 佐田幸一 丸山淳 手塚清孝 栃木: 大山賢史 桑島汐織 慶野芽以	

【1泊審判員研修会内容】 講師: 渡邊 整 氏

「2POメカニクス」について

○動きながらの判定をしない ⇒ 判定をするための動きをする

- ・これまでAlways movingやSpace-watchingが特に意識されている傾向だった。  
しかし、動くこと(スペース)が目的ではない → 目的を持って動くことが重要
- ・「人が動くからボールが動く」意識を！この意識が視野の訓練にもつながる。  
※ボールが動いてから見るでは遅い。



**「角度」と「視野」の確保が必要**

○トレイルに関して

- ・横のラインをみるだけの意識はNG(下におりるペネトレイト等)  
横だけではなく縦の意識も必要 - **cross step**  
※リードがプレイを受けにくいことが全てではなくなったため。「リードのブラインドのカバー」の考えも持つ  
※横だけの意識だと、接触等に対してすぐに吹きたくなってしまう(その次のプレイを捉えにくくなってしまうから)  
「チーム・プレイヤーがやりたいことは何か」を考えること
- ・プレイを捉える積極性がより大切

○リードに関して

- ・set up position ばかり意識しすぎると、、、足が動かなくなってしまう  
①set up position ②close down ③switch side をたくさん行うようにする
- ・close down = プレイを捉える準備動作  
※「ここ！」というときにswitch sideもしやすくなる

○レフリーには多くの感性が求められる

- ・「プレイがどこから始まる？」「誰がどう動いている？」等をゲーム内で感じる
- ・「この先はどうなっていくのか？」を考えること  
※過去にはこだわらない

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 29年 2月 11日 (土)

審判員名	大山 賢史	相手審判	(副審) 川北 聖人 氏	所属	茨城
カード	正智深谷(埼玉)	対	新島学園(群馬)	男子	1回戦

## ◇ ケース・ポジションについて

図1

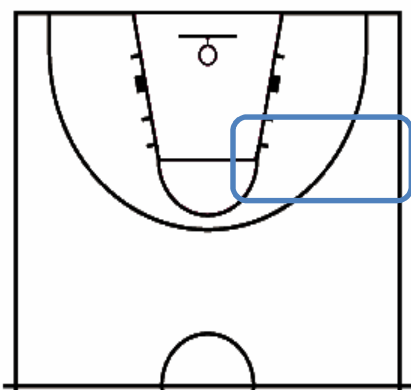
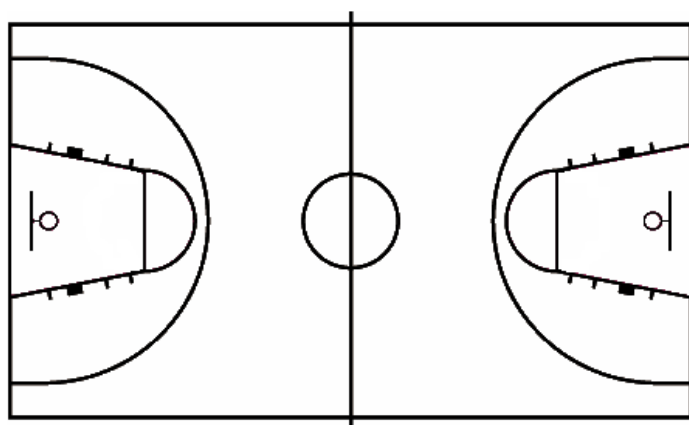
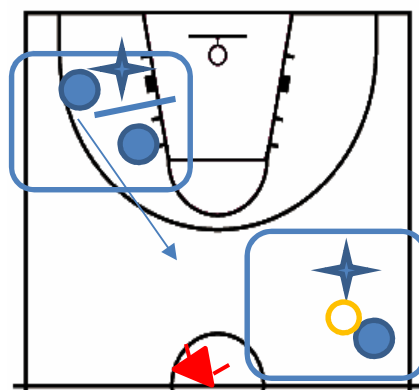


図2



- オフェンス
- ★ ディフェンス
- ボール
- ▲ レフリー

## ◇ ミーティングの内容

### ○エリアの分担とメカニックについて

・3～4番エリアについて受渡しがうまくいかないところがあり、確認が薄くなってしまった。図1

・3番と6番エリアでの同時のプレー(3番でボールプレッシャー 6番でダウンスクリーン)に対して、工夫してポジションをとっていたが、トレールが高くなってしまい、プレーから遠い判定が多かった。図2

### ○判定について

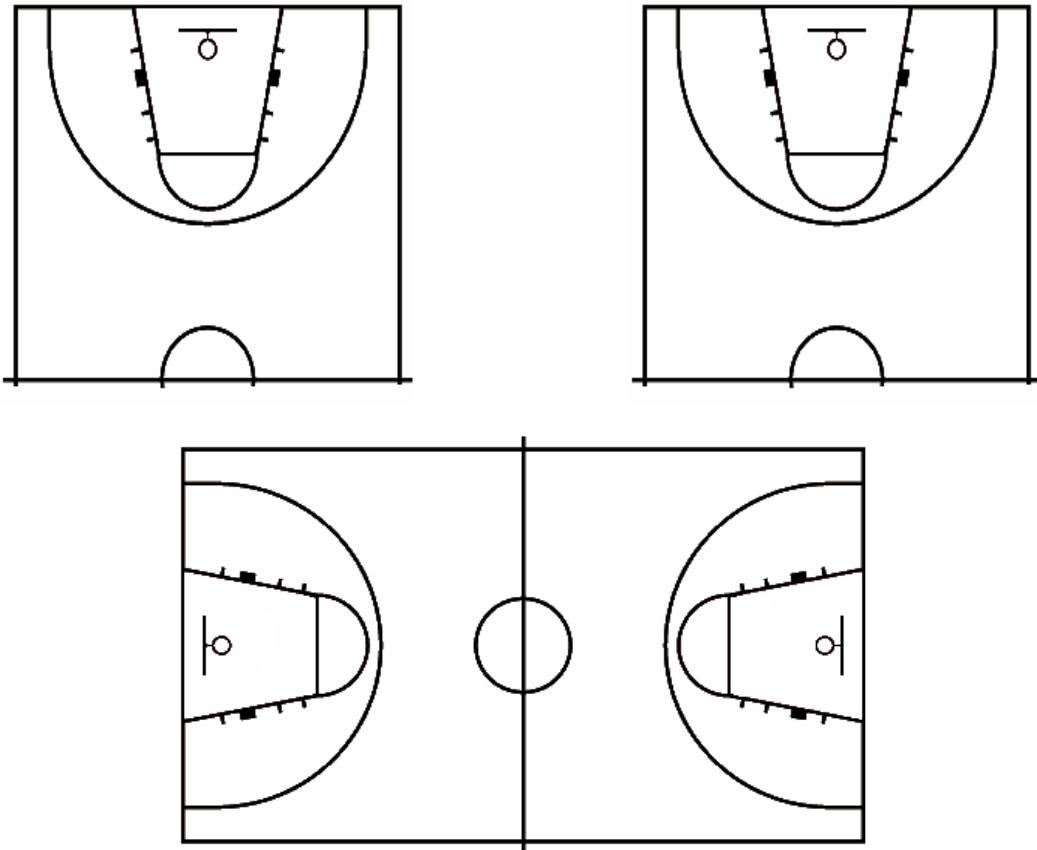
・ハンドチェックの判定を第1ピリオドから、もっと整理していくべきであった。(埼玉県 山崎氏)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 29年 2月 12日 (日)

審判員名	大山 賢史(副審2)	(主審)	緒方 崇 氏	所属 東京
カード	男子決勝 正智深谷(埼玉)ー市立船橋(千葉)	(副審1)	佐田 幸一 氏	所属 山梨

## ◇ ケース・ポジションについて



## ◇ ミーティングの内容

### ○3人の動き方について

・ローテーションの際にトレールが2人いる状態があった。

→原因として、迷いながら動いている。ボールの位置を把握して、クローズダウンからスムーズにスイッチが出来るようにポストに選手がいるかどうか などを常に頭、視野にいれておくとよい。

・センターがならすべき現象をリードからコールすることになってしまった。

→リードのスイッチが完了(体の向きを変える)するまでセンターはステイし、プレーを捕まえておく必要がある。スイッチの完了前にセンターがインサイドの選手を受け渡してしまい、結果センターがコールできず、リードにカバーしてもらうことになってしまった。

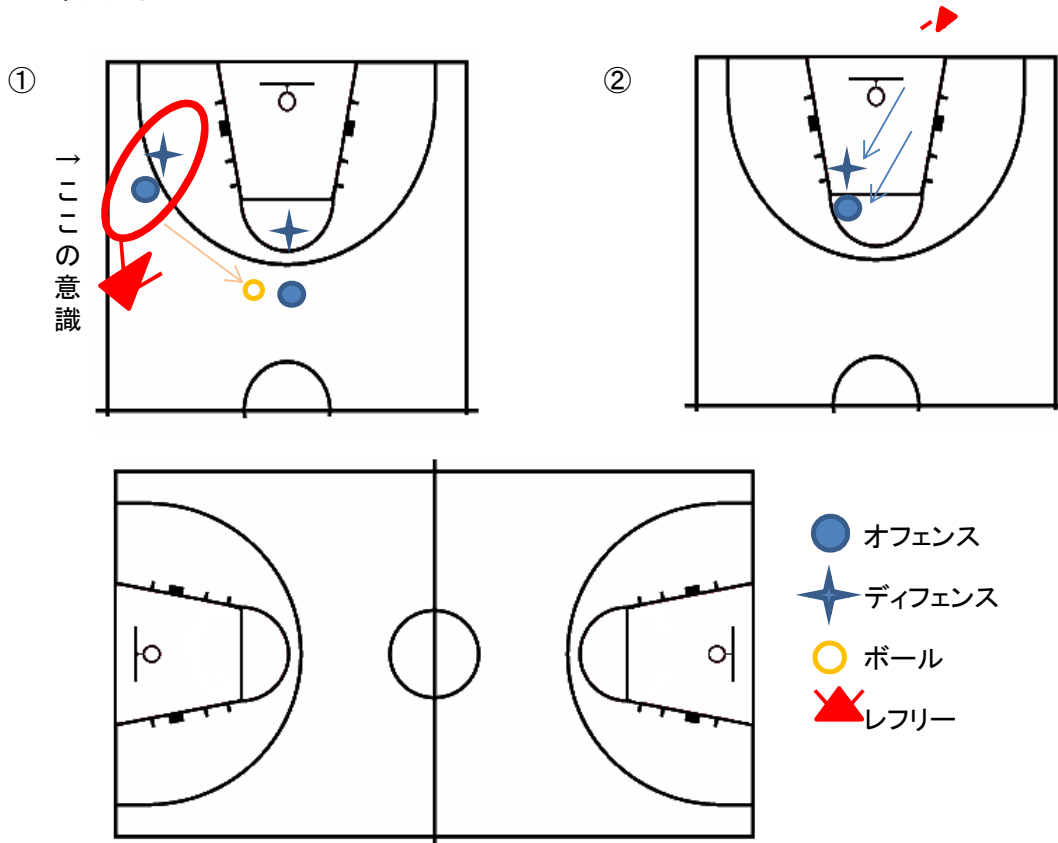
《審判主任》 稲葉 威 (茨城)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 29年 2月 11日 (土)

審判員名	慶野 芽以	相手審判	主 小柳 幸子 氏 所属 埼玉
カード	東京成徳大学(東京)	対	県立座間(神奈川) 女子 1回戦

## ◇ ケース・ポジションについて



## ◇ ミーティングの内容

ゲームの流れるには大きな問題はないが、細かく振り返ると改善点が挙げられる。

・ボール中心の見方になってしまっている。

→オフボールの意識が弱い。パスした後のプレイヤーの動きも目に残しておく様にする。 ※図①

・ポストアップに対するディフェンスのファウルについて、誰が責任を持って判定を行うべきか。

→離れていくプレイではあるが、プレイを最初から確認できているのはリードである。= リードのプライマリートレイルだけではなく、リードも笛で判定を示すべき。 ※図②

・リード：ドライブのプレイに対して、動きが遅れることがある。

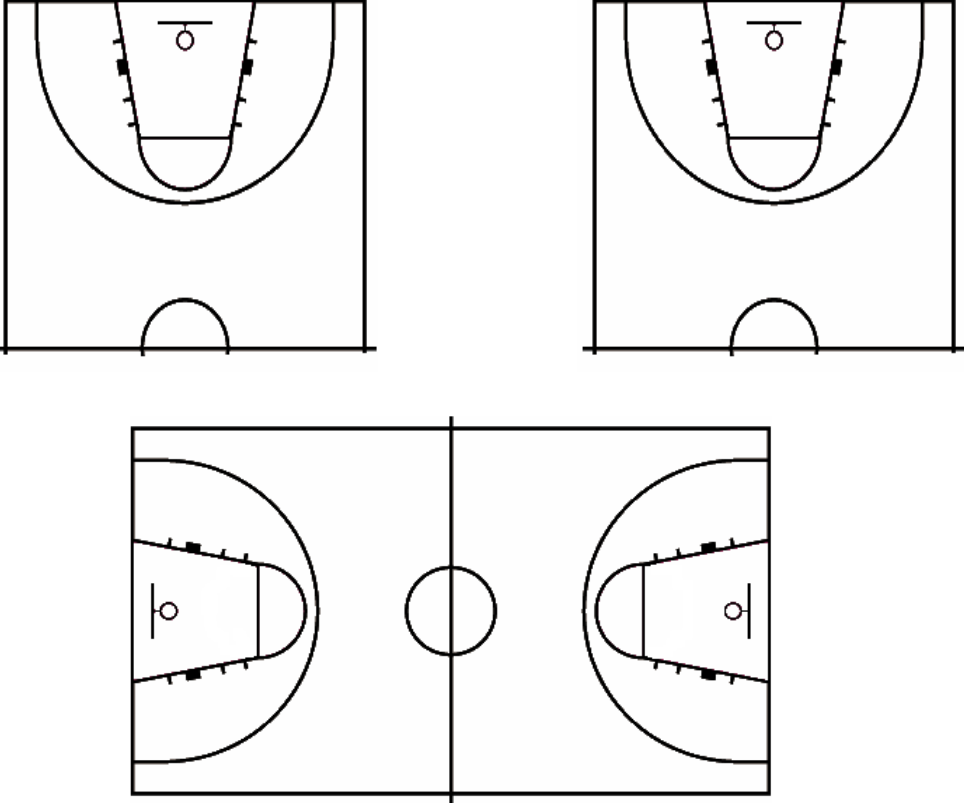
トレイル：比較的位置が高い。

→いかにゲームの中で自分で修正していけるかが求められる。それができる人がA級。

《審判主任》 吉田 憲生 氏 (埼玉)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成 29年 2月 11日 (土)

審判員名	桑島 汐織	相手審判	主 北島 寛臣 氏 所属 埼玉
カード	東京成徳(東京)	対	昭和学院(千葉) 女子 2回戦
◇ ケース・ポジションについて			
			
◇ ミーティングの内容			
<p>センター同士の争いのところを整理した方が良かった。 全体的には問題なくいいゲームだった。</p>			
《審判主任》久保 あしみ 氏			

## 【感想・県内審判員へ伝達したいこと】

“東京成徳高校vs昭和学院”という割当を目にしたとき、正直なところ「自分で大丈夫かな・・・どうしよう」という思いがよぎりました。ですが、同時に「このカードの割当をしてもらって嬉しい、楽しみだな」という思いも湧いてきていました。割当当日、両チームの初戦を観ていても不安でなのか期待でなのか分からなくなるほど気持ちが高まっていたのですが、主審の北島さんとプレゲームカンファレンスを終えたときは楽しみしかありませんでした。以前の自分であれば不安に押しつぶされ、ゲーム中何もできないまま相手審判にお任せばかりになって終わっていたかもしれません。ですが、栃木県協会の皆様、渡邊審判長をはじめとする審判仲間の皆様のおかげで多くの貴重な経験を積ませてきていただいたおかげで、自分なりに臆することなく相手審判と協力してゲームを進めることができました。これまでもそうでしたし、この先もそうですが今の自分より少し、場合によってはかなりレベルの高いゲームを経験することで判定力が培われますし、精神力も強くなっていくと思います。是非、県内審判員の皆様も今の自分よりも少しレベルの高いゲームを積極的に経験していただきたいと思います。

練習ゲームや講習会などへ意欲的に参加することで、公式戦の割当も変わってきます。普段の取り組み方がいざというときに表れます。審判レベルを上げたいと考えていらっしゃる方は、これまでの取り組み方を見直してみるのも一つの方法かもしれません。現状に満足することなく、今後もより高い判定力と強い精神力を身につけていくよう努力していきたいと思えます。

今回の派遣に際しまして栃木県協会をはじめ渡邊審判長、県内審判員の皆様に心より感謝申し上げます。

桑島汐織

今回は初めて2泊審判員として派遣され、関東大会決勝を担当させて頂きました。チームのために審判をすることはもちろんですが、個人的にも決勝戦を担当したいと強い気持ちをもって大会に臨みました。3POのシステムの理解や経験が他2人の審判員に比べ少なく、カバーしてもらうことが多かったように思います。もちろん動きだけではなく、判定についてもまだまだ未熟なところがあり、よく反省をし、改善・向上させていかなければいけないと強く感じました。

また、多くの審判員ともコミュニケーションを積極的に取り、主任を務めることやアドバイスの難しさなども勉強することが出来ました。U32-YOCの研修の際にコミュニケーションの重要性についての講義を受け、今回のレクチャーにおいても指名審判員の大庭氏と緒方氏からも同様の話を頂きました。コート内外に関わらず、会話の中で審判以外のキーとなるトピックは何なのか考えながら、今回行動し勉強できたと思えます。

渡邊整関東審判長、渡邊諭栃木県審判長をはじめ栃木県審判員に対し、派遣して頂いたことを心より感謝致します。また埼玉県審判員、大会役員の皆様にご配慮頂きまして、心より感謝申し上げます。

大山賢史

今回初めて、関東派遣を経験させて頂きました。上級審判員の方々の姿をたくさん見ることができたり、他県の審判員の方々とたくさん交流することができたりと、とても貴重で有意義な3日間になりました。

今回の派遣を通して、自分に足りないと感じさせられたものは様々なことに対する「気づき」の遅さや薄さです。プレイヤーのプレイの癖や、チームがやりたいこと等を少しでも早く察知し、レフェリングに活かすためにも、プレイヤーやコーチの行動・言動の一つ一つにしっかりと気づいていけるようになりたいです。また、「審判にはその人の人間性が良いも悪いも表れる」という言葉を聞いたことがありますが、全くその通りだなと最近強く感じるようになりました。コート内外を問わず、日常生活から「気配り・目配り・心配り」を心がけ、審判としてはもちろん、人としてもさらに成長していけるよう、今後も精進して参りたいと思えます。

今回の派遣に際し、渡邊諭審判長をはじめ、県内の審判員の皆様から、たくさんのご指導、ご支援を頂きましたことに、心より感謝申し上げます。また、渡邊整関東ブロック長をはじめ、他県の派遣審判員の皆様、地元埼玉の審判員の皆様にも3日間大変お世話になりました。有難うございました。

慶野芽以